

京都市立稲荷小学校 校長 吉山 茂樹

「47都道府県をどうして覚えさせたらいいですか？」(4年)

前回は、子どもに問題意識をもたせて、子どもと教材を近付けるというお話でした。今回は、具体的な授業場面をもとに、説明します。

今年度4月、4年生の担任の先生から、最初に都道府県の学習をするが、どのように授業を進めたらよいか相談がありました。日本には、47の都道府県があることを学習します。



日本には、47の
都道府県があります。
少しずつ、覚えましょう。
〇月×日にテストをします。



え〜〜。
そんなの
覚えられない。

そこで、考えたのが「3ヒントクイズ」です。教師がいくつかヒントを言って、子どもたちに当ててもらおうクイズです。よく分かる都道府県なら「2ヒント」でも「1ヒント」でも、OKです。そのヒントは、社会科と関係がある、地形的なこと、特産物、歴史的なことを含めると、これからの学習に生きてきます。つまり、大切なことは単に都道府県を覚えるのではなく、関連する内容と一緒に覚えることで、考えが広がるということです。

となりの県です。
琵琶湖があります。

滋賀県だ！



〇〇(担任)先生の
出身地です。
シカがたくさんいます。
大仏もいます。

奈良県だ！

こんな感じでやっていくとがぜん盛り上がります。できたら、写真とかの資料もそえていくとより印象が強くなります。近畿地方から、だんだん遠くにいくとよいでしょう。

お城があります。
お城の上にシャチホコがのっています。
大きな自動車の工場があります。

名古屋市のある
愛知県だ！

子どもたちは、地図帳で場所を確認しながら、白地図に都道府県を書いています。



台風がよく来て、シーサーがいます。
パイナップルがたくさんとれます。
アメリカ軍の基地があります。

沖縄県だ！

この調子で、47都道府県すべていってもよいのですが、主体的な学びを考えた時には、もう一工夫していきたいものです。ここで、本題に戻りますが、「47の都道府県を覚えましょう。」ではなく、「今日学んだ都道府県以外にどんな都道府県があるのか、特産品などと一緒に調べてみようか。」と、投げかけてみると、子どもの調べたい意識は確実に上がります。本校では、残った40都道府県を、グループに割り振り、自分たちで調べて、自分たちで3ヒントクイズを出すことにしました。しかしながら、そんなに時間の取れる単元ではないので、残った都道府県は、帯タイム（15分）を活用するようにしました。帯タイムを有効に活用することもとても大切です。



今から、3ヒントクイズを
します。分かったら、
手をあげてください。